

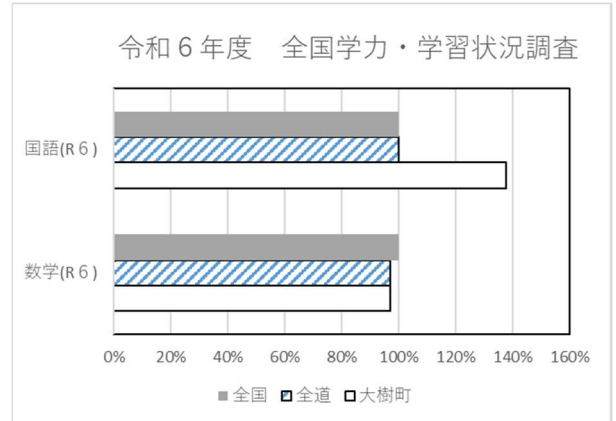
全国学力・学習状況調査の結果から② 中学校編

4月18日(木)に実施した調査結果をもとに、大樹町教育研究所の協力で概要と改善のポイントをまとめましたので、10月号の小学校編に続き、中学校編をお知らせします。

学力調査の状況

令和6年度の調査について、全国と平均正答率を比較すると、国語は大きく上回り、数学は若干下回る結果となりました。

また、生徒質問紙調査からは、「学習に対する興味・関心」に対する肯定的な回答が高いほど、平均正答率も高くなる傾向にあるという相関関係を読み取ることができました。今回の結果を踏まえ、すべての教科において、教科に対する興味・関心を育む授業改善を通して、基礎・基本の確実な定着を目指し学力向上を図っていきます。



調査結果概要と改善方策例

	結果の概要	改善のポイント
国語	<ul style="list-style-type: none"> ●「知識及び技能」、「思考力・判断力・表現力等」の内容において全国の平均正答率を大きく上回っており、どの領域においても確かな学力の定着が見られた。 ●特に「思考力・判断力・表現力等」の「書くこと」「読むこと」において、全国と比較し高い正答率となっていた。 	<ul style="list-style-type: none"> ●国語の力はすべての教科の基盤であることを踏まえ、これまで同様、粘り強く課題に向き合い必要な情報を読み取り自分の考えをまとめる授業づくりを継続していく。 ●国語で身に付けた力を、他教科や日常生活で積極的に活用する機会を意図的に設けることで、総合的な学力向上につなげていく。
数学	<ul style="list-style-type: none"> ●「関数」「データの活用」の領域及び「思考力・判断力・表現力等」の評価の観点において、全国の平均正答率を上回ることができた。また、記述式の問題形式において全国の平均正答率を上回っており、粘り強く問題に取り組んだことがうかがえる。 ▼「図形」の領域、特に証明に関する問題に課題が見られ、領域ごとの知識及び技能の定着に差がある結果になった。 	<ul style="list-style-type: none"> ●知識の定着を図るために家庭学習の習慣化や、数学的な知識を日常生活と結び付けた課題設定など、学習意欲を向上させる取組を進める。 ●数学的な見方や考え方を働かせ、数学的活動を通じた課題解決する授業づくりを進め、生徒が主体的で対話的に学ぶ授業改善を図っていく。
生徒質問紙から	<ul style="list-style-type: none"> ●「生活習慣・学習習慣」「規範意識・自己有用感」「学習に対する興味・関心」の調査領域において、全国平均より高い結果となった。特に国語への興味・関心が全国平均を大きく上回った。 ●「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う」と回答した生徒が98%であった。また、1・2年生で受けた授業では、「課題解決に向けて自分で考え取り組んでいた」「自分の考えが伝わるよう工夫して発表した」の回答が全国平均を上回っており、主体的に学習に取り組む態度が育まれていたと考えられる。 ▼「朝食を毎日食べる」生徒及び家庭学習時間が全国に比べ若干少ない傾向にある。 	<ul style="list-style-type: none"> ●学力の向上については、基本的な生活習慣や学習習慣等の安定と学習への興味・関心に相乗効果があることが明らかであり、今後も、望ましい生活習慣の啓発など家庭と連携しながら取組を継続していく。 ●規範意識や自己有用感が高い結果から、生徒一人一人に寄り添った生徒指導のさらなる充実を図っていく。 ●授業におけるICTの活用が、生徒の学習意欲向上や協働的な学びに効果的であることから、主体的・対話的で深い学びに向けてICTの活用を積極的に進めていく。